

絆 求 め て

6月23日発行

文責 幼児教育専門員 久保田学



主任・学年主任研修を実施しました！

令和4年6月4日(土)、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長の 安家 周一先生を講師にお迎えし、「主任・学年主任研修」を長野ターミナル会館で実施しました。テーマは、『「自律的に問題解決するためのアプローチ」～ファシリテーション的気づき～』で、個別最適化の学び、愛着(アタッチメント)形成の重要性、メンター・メンティー制度など、園の中核としてどのように園運営に係っていくかについてお話いただきました。また、午後の研修では、環境構成を考える視点や一斉保育での主体的な学びづくりなど、受講者が保育現場で課題に感じていることについて、ご示唆いただきました。



<研修から学んだこと・今後に生かしたいこと>

- 愛着を小さい頃から受けることで、自己が育つ。おもちゃを取り合う経験も大切。突き飛ばしてしまった子をしかるのではなく、突き飛ばされた子にそっと寄り添うことで、他者理解が深まり、相手に優しく接するようになる。いけないことをいけないと伝えるだけが保育ではないと思いました。
- 幼児期の他者理解について…「自分と他者を切り離して考えることが未発達であることから、友達とのトラブル、ぶつかり合いが生まれる。」という事を知りました。「どうしてたたいたの」「もうしないって約束したよね」など、声をかけていたことは、何度もあったかと、振り返って思いました。子ども自らが他者理解を深める機会を奪っていたかもしれないと思いました。叱ることはする必要がないということを、園の先生たちとも共有していきたいと思えます。
- 主体的な保育に取り組むようになって、子どもの人権を最優先にして日々考えているのですが、迷いが多く、自信が持てずにいます。安家先生のお話をお聞きして、時間はかかっても、しっかり意見をぶつかり合わせ、子ども達が納得して決めることの大切さを改めて確認することができました。じゃんけんやくじ引きで決めるのではなく…どうしても結論を出してまとめてしまいがちで反省しています。收拾がつかなくて結果を急ぐのではなく、とことん子どもと向き合えばいいのだと、原点にかえることができました。ぶつかり合うプロセスとそこから育っていく子どもの姿に自信を持って併走してみようと思えます。
- 今回のお話の中に、教育に必要なのは一斉保育のような「集中」ではなく、「分散」という言葉がありました。この分散という一人一人の個としての学びを深めたり、楽しいと思えるような環境を作っていたりしたいと感じました。
- 園にどんな教材、素材があるか 4月に棚おろしをすると良いというお話がありました。本園は新人の職員が多いので、全員で使えるもの、使って良いものを共通理解しておくことで、新人やその他の先生の日々の保育のアイデアに役立つのではないかと思います。

研修後の先生方のレポートを読ませていただくと、多くの先生から「私の園は、一斉保育が中心で、子ども主体の保育にはほど遠く、今の状況をどう変えたら良いか迷っています。」との声が聞かれました。活動は一斉(例えば、こいのぼりを作る活動)でも、工夫次第で子どもの主体的な学びにすることが可能であると思えます。(例えば、こいのぼりのイメージづくり、素材選択、できた作品の活用方法など)ぜひ、その視点で今までの活動について園の先生方で話し合ってみてください。(専門員 久保田)